

EU Indicators

欧州経済指標コメント：12月ユーロ圏消費者物価(確報)

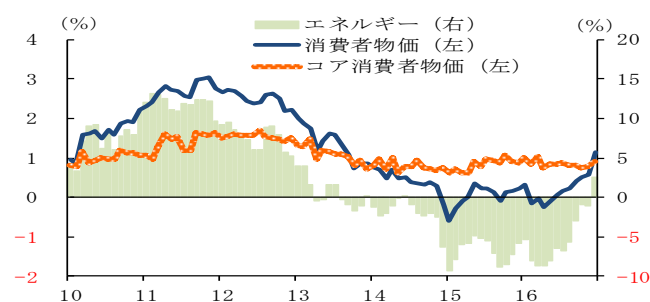
発表日：2017年1月19日(木)

～インフレ警戒論の真偽～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

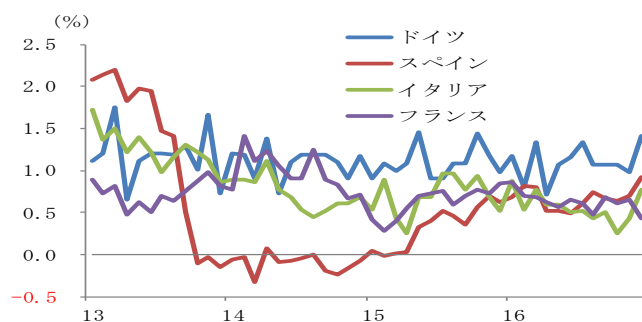
- 18日に発表された2016年12月のユーロ圏の消費者物価の確報値は、前年比+1.1%と速報段階から不変。今月初旬の速報発表時には前月(同+0.6%)から大幅に加速し、俄かにインフレ警戒やECBの緩和縮小を求める声も聞かれ始めた。インフレ加速の主因は、原油価格の底入れとユーロ安進行を背景にエネルギー価格(前月：同▲1.1%→今月：同+2.6%)が上昇に転じたことに加え、過去4ヶ月同率で推移していたコア物価(同+0.8%→同+0.9%)も僅かに上昇率が加速したこと。
- 速報段階で入手可能だったドイツの州別計数の内訳から、月毎の変動が大きいパッケージ旅行の上振れがコア計数を押し上げた可能性が指摘された。今回の確報で明らかとなった費目別・国別の内訳によれば、従前に指摘されたドイツのパッケージ旅行に加え、イタリアの航空運賃とパッケージ旅行、スペインのパッケージ旅行がコア計数の押し上げに働いたことが確認される。これらがドイツとイタリア両国のコア物価を約+0.2%ポイントずつ、スペインのコア物価を約+0.1%ポイント押し上げたことで、ユーロ圏全体のコア物価を約+0.1%ポイント押し上げた。
- こうした一過性の要因を除けば、ユーロ圏のコア物価は前月並みにとどまった計算となるが、特殊要因によってトレンド転換を見誤ることは間々ある。企業の価格支配力がそれほど高まっている印象はないが、ヘッドラインのインフレ率に基づいて物価スライドが決定されたり、原油高の波及効果も当然ある。ドイツのインフレ警戒論は行き過ぎにせよ、物価を取り巻く環境は着実に変化している。

■ユーロ圏：消費者物価(前年比)



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国のコア消費者物価(統一基準、前年比)



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価(%)

	2016				2016											
	1Q	2Q	3Q	4Q	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
消費者物価(前期比)	-0.4	0.4	0.3	0.4	-0.0	0.3	0.2	0.0	-0.0	0.1	0.2	0.0	0.4			
(前年比)	0.0	-0.1	0.3	0.7	-0.2	-0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.5	0.6	1.1			
コア消費者物価(前年比)	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9			
食料/アルコール/たばこ(前年比)	0.8	0.9	1.1	0.8	0.8	0.9	0.9	1.4	1.3	0.7	0.4	0.7	1.2			
食料(前年比)	0.6	0.6	0.9	0.5	0.6	0.6	0.6	1.3	1.1	0.4	0.0	0.4	1.1			
アルコール(前年比)	0.9	0.9	0.9	0.9	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	1.1	0.9	0.7			
たばこ(前年比)	2.2	2.5	2.3	2.3	2.0	2.7	2.7	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3			
エネルギー(前年比)	-7.4	-7.7	-5.1	0.2	-8.7	-8.1	-6.4	-6.7	-5.6	-3.0	-0.9	-1.1	2.6			

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。